

各位

上場会社名	石垣食品株式会社
代表者	代表取締役社長 石垣 裕義
(コード番号	2901)
問合せ先責任者	経理部経理課 課長 小西 一幸
(TEL	03-3263-4444)

業績予想の修正及び為替差益の発生に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成23年10月24日に公表した業績予想を下記の通り修正するとともに、為替差益の発生がございましたのでお知らせいたします。

記

● 業績予想の修正について

平成24年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	559	9	9	9	2.85
今回修正予想(B)	575	5	7	5	1.65
増減額(B-A)	15	△4	△2	△4	
増減率(%)	2.7	△46.0	△24.0	△42.3	
(ご参考)前期実績 (平成23年3月期)	541	△4	△3	△1	△0.54

平成24年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	559	8	7	7	2.12
今回修正予想(B)	571	△0	1	1	0.35
増減額(B-A)	12	△8	△5	△5	
増減率(%)	2.1	—	△75.3	△83.3	
(ご参考)前期実績 (平成23年3月期)	541	△10	△11	△6	△2.07

(注)上記の予想は、当社が現時点で把握可能な情報から判断する一定の前提に基づいた見込みであり、多分に不確実な要素を含んでおります。
実際の業績は今後様々な要因によって当社の見込みと異なるかもしれないことをご承知おきください。

修正の理由

売上高については、飲料事業は、麦茶が想定を上回る減収となったものの、ごぼう茶が更に順調に取扱店舗の拡大に成功して麦茶の減収をカバーする結果となり、事業合計自体は前期並みの数値となり、想定通りとなりました。一方で珍味事業のビーフジャーキーが、前期から開始した駄菓子向けOEMを中心に好調が続き、想定以上の増収となり、合計売上高の上方修正に繋がりました。

収益面については、営業損益においては、中国子会社で生産するビーフジャーキーが今年に入ってから為替が円安に転じたことと現地の人件費や原材料費の急騰によりコストが想定より上昇し、また麦茶の減収が下半期の国内工場稼働率の低下に繋がったため収益が想定を下回りました。

中国子会社で生産するビーフジャーキーについて、コスト上昇に伴い本社・子会社間の売買価格の見直しを行ったことにより、子会社収益は改善したものの、本社単体の収益は悪化したため、個別業績予想では若干の営業損失の計上となりました。

販売費及び一般管理費においては、麦茶市場の競争激化に伴って販売促進費の負担が想定を上回り、収益を悪化させました。

これらの要因により、売上高は予想を上回ったものの、営業損益は予想を下回る結果となっております。

経常損益においては、中国人民幣元に対して円安が進んだことから為替差益1,427千円が計上されました。

最終損益においては、中国子会社の黒字が予想を上回ったことから現地法人税等も見込みを上回り、下方修正となりました。

以上